

国際シンポジウム「里山—文化としての自然」

アンケート抜粋

- 韓国話を聞いたのは初めてで、とてもおもしろかった。まず韓国に森がそんなに多いことすら知らなかった。又、地理的に近いこともあり、主な木（ナラ、ケヤキ、マツetc）が、日本に似ていることも興味深かった。山の写真をいくつか見せていただいたが、ヨーロッパの山の写真を見た時のような“外国感”が無く、やはり日本と似た要素をいろいろ持っているのだと思った。しかし、似た要素を持っていても、森の現状には違った点も多々あると思う。それは、国の歴史、民族性（宗教的視点その他）などに因るもののことだが、その違いをふまえた上で、今の森や、今までの森と人とのかわり、それに伴う森の状態の変化を対比させると、また新たな視点が生まれ、森とのかわり方について考えていくことに繋がるだろう。湯本貴和さんの話は、里山に関する話を次に一歩進めるもので、刺激になった。“どの様な生態系サービスを求めるのか”、言い替えると、“誰が生態系サービスを受けるのか”。この話を進めるには、“誰が”が問題になってくると思う。“誰が生態系サービスを管理していくのか”。経済的な部分で、ややこしいことも出て来そうだが、それはさて置き、“どの様な—”を、社会に、新たな認識として広めていくことは、“里山”話を次に進めるものとして、意味があると思った。
- 里山を歴史的な側面や哲学、インフォームドコンセント・トレードオフ、そして韓国と様々な視点から見る事のできたとても有意義なシンポでした（最近でかけた「里山」とつくシンポの中ではかなり上位です）。集まってる人数のわりに人が少なかったもので、前の方に座るよう促すとよかったかも。時間の問題があったかもしれないですが、後半のディスカッション、せっかく来場者の方からの質問を聞いてくださったのに、今いちライブ感みたいなものがなかったので。1つの質問に演者1人より、複数の演者で答えてもらったら、内容が発展してよいものになったのでは?? 湯本さんのCOP10にどういう姿勢で向かうのか! みたいな話がありましたが、他の方の話し

も聞いてみたかったです。

- ノスタルジーを感じさせる「里山」。人それぞれ「里山」に持つイメージは異なっているように思う。里山を保全することの意義や必要性などを説明するのは難しい。今回のシンポジウムをきくことで、自分の中での整理が少しついてきた。利用とつながりを持って存続してきた「里山」の今後の社会のマッチした利用法を考えることが、今後の「里山」の保全につながると思うので、それらについても、学問の壁をこえての話し合いが出来る場を持てたら良いと思った。
- 大変勉強になりました。違った見方ができ、視野を広げることができました。
- 韓国からお越し下さった、両金先生のご報告は、非常に興味深いものでした。特に、金錫権先生のレクチャーは、大変わかりやすく、韓国の里山とはどういうものであるかということを、短時間で理解することができました。かつて、日本人が韓国の里山に対して行った活動には、大変心が痛み、韓国の方々に大変申し訳ない気持ちになりました。

丸山先生の“言葉” 一里山 についてのお話、大変興味深く、聴かせて頂きました。“里山”について考える時は、自然（生態学、生物学など）からのアプローチと、人間（人文学、史学など）からのアプローチ、両方からのアプローチが不可欠であると感じました。

- 韓国での里山の話をお聴かせもらい新鮮だった。自然と文化。今日のお話の内容を、今後の生活の中で、又地域で、力まずに実践して行きたい。
- 「里山」の言葉にこだわる話。定義や言葉の使われ方の変化が参考になった。韓国の「里山」の状況が参考になった。
- テレビ等で韓国首都近郊のはげ山を見て、韓国の山を想像して来ましたが、その原因（はげ山）の多くは我国の帝政時代の影響と知って考える所多かった。今迄不勉強で申し訳なく思う次第である。里山、自然の保護。
- 里山プロジェクトに参加しています。龍谷大学が、この様な広範な取り組みされている事は気付きませんでした。現在の瀬田丘陵を開放し、一般社会人他子供達が利用して、丘陵の多様な生物を研究出来る面白さがある。私は現在滋賀大学で環境学を学び、環境学習支援をとなるべく努力していますが、里山を理解すべく瀬田丘陵に入る事を楽しみにしています。今回韓国の里山の様子も知る事も出来た。日本の統治時代から

朝鮮戦争時代まで荒れた土地の環境に対する共同体作りや統治・教育・文化の再生の努力がうかがえる。日本の環境教育・市民運動も学ぶ事が多い。又共通点も多いと感じている。日本も韓国も官の規制よりも市民運動、大学の環境に対する役割は大きい。

- テレビで見る韓国は、都市ばかりだったので、今日のシンポジウムで韓国も自然に目を向けていることがわかったのでよかったと思う。ただ、森と人間がイベントで結びつくのはできるが、生活で結びつく（定着し続ける）のは難しいと感じました。日本も韓国も同じだと思った。
- 伝統的文化の発展的継承が大切で、その上で新しい文化を創っていくことが大切というお話が印象的でした。韓国と日本の事例を比較して聴くことが出来たのも、とても良かったです。貴重な時間をありがとうございました。
- 韓国のお二人のお話しがとても興味深く、アジアの広域的な視野を持つ事の大切さを痛感しました。特に、金才賢先生の東アジアの森の文化にプライドを持つという言葉にはげまされました。共存の森ネットワークの方に親切丁寧に説明していただいて、とても印象に残りました。ドングリゼリーはぜひ作ってみたいです。が、どうやって作れば良いのでしょうか？HPにのせて欲しいです。
- 漠然と、「里山の再生」を考えておりましたが、人手が加わり始めてから今日までに、人の要求する質量などにより、様々な姿をたどってきていることを、改めて知らされました。私達が里山にかかわるとき、そのような内容（機能）の里山を考えるのか、みつめ直してみる必要があると感じました。里山のモザイク模様という見方（多様な里山の存在と言えるか？）にも考えさせられました。私達の地域へ、本日のお話し下さったことを持ち帰って、同志と共に、もっと充実した活動内容づくりへと生かしてまいりたい。貴重な機会へのご案内いただき、ありがとうございました。
- 一般的な里山論というものはなく、地域・時代によって、それぞれの立場での里山論、里山学というものを研究すべきだということが分った。
韓国の里山は、日本の植民地の時代、朝鮮戦争の時代を経て、荒れた時代もあったが、現在は、すっかり回復してきていることが分った。
- 韓国のお話が聞けたのはよかった。日本政府は2010年に向けてSATOYAMAイニシアティブという名前で、持続可能社会づくりの情報発信をすすめています。どこの国にも人が自然に対して働きかけ、持続的に利用してきた「里山」的システムがある

わけですが、歴史・文化・自然観にはいろいろ違いがあって、それを理解せずに SATOYAMAだけを押し出すのは危険かも知れないと感じた。

里山には、現実には人が生きる場所という側面と、文化や生物の多様性が維持されて来た場という側面があり、両方について考える必要がある。新しい生態系サービスの利用は、必ずしも過去の文化を保存することとつながらない。遺産として保存するしかないのだろうか。

- 里山文化の一端を知りました。韓国の対策は、当を得ていると感心しました。市民参加の森づくりは良いです。韓国に行ってみたくなった。
- 今回のシンポジウムでは、韓国と日本の比較をクローズアップさせたものだと思うが、できれば他の国の「里山」の事例についても触れていただけたら、より良かったと思います。当センターで行っている「人と自然の共生国際フォーラム」の実施にあたっての参考となりました。ありがとうございました。
- ことばの歴史からいろいろなことに思いをふくらませることが出来ました。風土ということばが日本人的であるのかなと思いました。里山の所有に多くの問題を含む現状を見て、所有者以外の市民の参加を支援し、その維持管理のむずかしさを感じています。
- 今回、こういったシンポジウムに初めて参加して、最初はあまり意欲はなかったけれど、意外ととてもおもしろかった。自分の実家も森の中に囲まれた環境なので、いろいろ興味をもてた。田んぼや畑がイノシシ、シカに荒されるので、もう一度この機会を生かして考えていきたい。今回はありがとうございました。
- 本シンポジウムは文理融合の理想的モデルケースとして、たいへん興味を持って参加させていただきました。特に、金錫権先生の韓国文化の基底としての森林、また丸山徳次先生の里山の定義については、特に興味深く、楽しく聞かせていただきました。今回はご案内ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。
- 韓国の森林の話を大変興味深く聞かせてもらいました。日本と共通するところ、少し違うところがありました。よく儒教の国と言われますが、日本が失い始めている「心」を未だ保っているような気がしました。
- 里山と文化について、いろいろな角度からの講演を聞き、大変勉強になりました。（特に韓国の話は新鮮だった）韓国でも荒廃した土地に自然を取り戻す活動が活発、

特に日本以上に市民参加型の背景としくみが整っていることを改めて知りました（日本語うまい。プレゼンテーションもわかりやすい）。最後の丸山先生の話し、理クツツポイ話しかなと思っていたら、冒頭の企業風土から言葉の持つ意味が、時代の変センとともに変わりゆく話しに、つい引き込まれました。面白かった（本当に）。何を言うにしても、何が問題で、何が課題か、理路整然した頭を持って対処していかなければならないと感じました。老化防止にも役立ちます。今日は文化中心で生態の話題が少なかったのも、本日のテーマのせいではなかった。

追：シンポジウムでの金錫権さんの追加説明、非常にわかりやすく勉強になった。

- 私は30年前に韓国の畑作地帯（里山的環境の色の濃い）を歩いて雑穀を調べたことがあります。そのときは集落の周辺のことについて、あまり注意を払えませんでした。本日の金錫権氏のお話は、そのことを歴史的、生態的な観点からとてもわかりやすく話をしていただき、韓国の山村の全体像を把握できたように思いました。金才賢氏のお話は、最近の市民活動のお話でしたが、日本における諸活動より、より組織的であり、われわれが参考にすべきことが多いように感じました。湯本さん、宮浦先生、丸山先生のお話で、里山ORCの4年間の活動の成果が総り多いものであったことを知る機会となりました。